

家電にもサイバー攻撃リスク

インターネットにつながる家電や車など「モノ」のインターネット（IoT）製品が身の回りに増えてきた。生活が便利になる一方、サイバー攻撃にさらされるリスクも拡大。攻撃を受けると個人情報盗まれる恐れもあり、情報セキュリティ専門家「パソコン（PC）同様の対策が必要」と注意を呼び掛けている。

IoT製品市場拡大

パナソニックは2017年11月から19年11月まで台湾の研究室で、セキュリティ対策をせずに9種類の電気製品を直接ネットにつなぎ、通信を調べた。サイバー攻撃は2年で約2億6900万件あり、多くは攻撃が可能かどうか下調べする通信だったが、パスワードを何度も入れ、利用者に成り済ましてログインしようとする攻撃も確認された。ウイルスは約2万2千個見つかった。感染すると外部から遠隔操作で電源を入れられたり、設定を変えられたりする恐れがある。機器を乗っ取られ、他人への攻撃に悪用される可能性がある。

個人情報盗む、遠隔操作 PC同様対策を

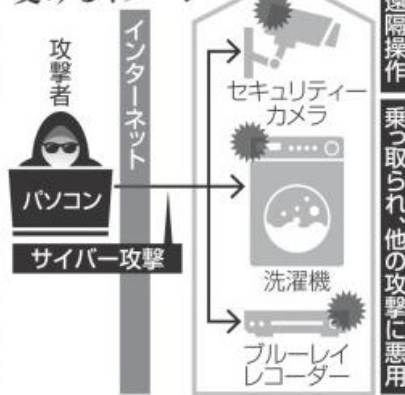
サイバー攻撃の調査をするためインターネットにつながれた家電。9月、台湾（パナソニック提供・共同）



総務省の情報通信白書に

ルレーレコーダーへの攻撃が多かった。パナソニック担当者は「パスワードを強固にするなどの対策が重要だ」と話す。

IoT家電がサイバー攻撃を受けるイメージ



よると、20年までに世界中でIoT機器は約400億台に達すると予想されている。ネットにつながるコネクテッドカー、脈拍や体温を測るデジタルヘルス機器、工場の検査機器などの市場拡大が背景にある。IoT機器はセキュリティ対策が不十分な場合が多い。総務省は今年2月から家庭や企業などを対象にIDやパスワードが推測されやすいかどうかを調べる大規模な対策を実施。来年4月からはメーカーに機器の不正アクセス対策を義務化し、基準を満たさないものは製品化できなくなる。情報セキュリティ大学院大の後藤厚宏学長（情報工学）は「家電でもパソコンやスマートフォンと同じレベルで対策を講じる必要がある」と話している。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

IoT= Internet of Things
「モノのインターネット」

名前【 】

① パナソニックが行ったネットにつないだ電気製品に対するサイバー攻撃の調査では、2年間に約何件の攻撃がありましたか。

③ 攻撃元の通信は主にどこからのものが多いと言っていますか。

② 同じ調査でウイルスはいくつ見つかりましたか。

④ IoT機器はセキュリティ対策が不十分な場合が多いため、総務省は来年4月からどのようにすると言っていますか。